

ワークショップ 10

「消化管における全層切除と組織欠損の閉鎖・縫合の新展開」

司会 上堂 文也（大阪国際がんセンター消化管内科）

野村 達磨（鈴鹿中央総合病院消化器内科・内視鏡センター）

消化管における低侵襲治療は、EMR/ESD を基盤として現在では LECS や内視鏡的全層切除へと発展を遂げている。その一方で、切除後に生じる粘膜欠損や全層欠損に対する閉鎖・縫合技術の改良や開発は、内視鏡切除の適応拡大や安全性向上の観点からますます重要性を増している。本ワークショップでは、消化管各領域における全層切除と粘膜・全層欠損の閉鎖縫合について、経験や手技の工夫、偶発症対策に関する新たなアイデアを幅広く募集する。日常診療でのちょっとした工夫から、先進的な技術や機器の開発まで、多くの先生方からの積極的な応募を期待する。